

BOOK GUIDE

読めば納得! ブックガイド



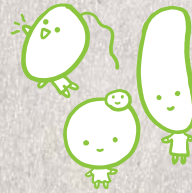
「マンガでわかる菌のふしぎ」

宇宙も地球もヒトもどこも菌だらけ!
だから生きていける!!



著者:中西貴之
出版社:ソフトバンククリエイティブ サイエンス・アイ新書
定価:952円+税

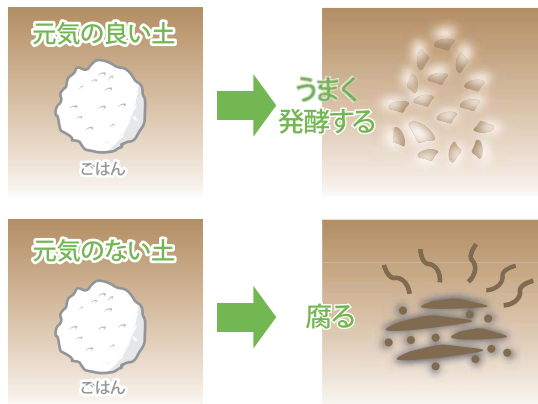
肌を守る皮膚常在菌やエネルギーとなる栄養に係わる腸内細菌など、私たちの身体はもちろん、身の回りの環境や地球環境が菌との係わりによって維持され守られていることや、最新の研究でわかった菌についての想像を絶する生態も詳しく書かれています。文章だけを読むと菌について専門的で少し難しそうですが、見開きの1ページはマンガなので文章の内容を面白く解説してくれています。著者は私たちと菌との関係を愛情深く「カワイイもの」として視覚化することで、菌の姿を理解させ、菌と敵対するのではなく、共存共栄している現実を示し、現在の行き過ぎている抗菌の在り方に警鐘を鳴らしています。私たちの世界になくてはならないものとして、菌たちを考えるためにぜひ読んでいただきたい一冊です。



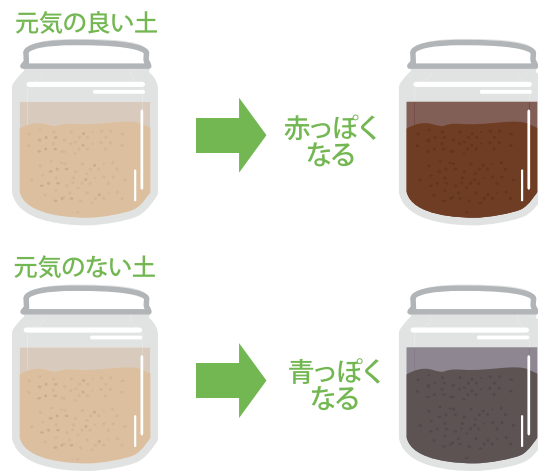
落葉がいつのまにかなくなっているのもボクらの仲間がいるからだよ!

★いい土の見分け方

●おにぎりを埋めて発酵具合を確かめてみよう
ごはんを丸めて土の中に埋め、数日間様子を見てみましょう。いい土だとうまく発酵し、白カビが生えて、発酵した臭いがします。腐って悪臭がしたり、ウジがわいているのは微生物環境が悪い方向に傾いている土です。



●水に溶かして色を見よう
ビンなどに入れた土に水をひたし、密閉してしばらく置きます。光合成細菌が元気ない土は、赤っぽく変化していき悪臭もありません。



参考資料:「エコ・ビュア」28号 (特集:EMと土)
「土いじりが楽しくなる本」アキラ・ルーム編
「誰でもできる やさしい土の調べ方〜土壌の仕組みと働きを学ぶ25の実験」
塚本明美・岩田進午 著

3回シリーズでお送りした「土の話」も今回がラスト。
いい土には微生物が必要と説明してきましたが
今回はどんな「いい働き」をしているのか、さらに働きを
パワーアップさせるためのコツをボクたちがお教えいたしましょう。



●1gの土の中には数百万〜数億個の微生物が!

土の中には、さまざまな細菌、カビの仲間、藻類、アモebaなどの微生物が無数にいます。細菌やカビというと抵抗を感じる人もいるかもしれませんが、実はとっても有能な働き者。せっせと土の中の植物のくず、動物の死骸や糞などの有機物を分解して、養分として植物が吸収しやすいように変えてくれるのです。また、大気中から植物の成長に欠かせない窒素を取り込んで、根から吸収できる栄養分に変えてくれる菌もいます。

土の中の微生物が働くと、化学肥料のように特定の成分だけを急激に補うのではなく、自然界のいろいろな養分をバランスよく行き渡らせ、じっくり蓄えることができるので効き目が長く続きます。自然のサイクルがうまく回るようになると、微生物もいっそう元気になり、結果的に土も健康になっていきます。

●いい微生物を味方につけて理想の土を育てよう!

さらに、多種多様な微生物は、バランスのとれた土の環境を守るために団結パワーを発揮します。しかし、実際には大多数の微生物はどっちつかずの優柔不断な、日和見菌。状況に応じて力の強い微生物の味方をしてしまいます。有機物を分解したり、発酵を行う微生物や、病害虫などに強い微生物などの善玉菌が活発な時は、いい土になっていきますが、腐敗型の微生物などの悪玉菌が勢いづく、病害虫や悪臭が発生しやすい土になりかねません。そこで頼りになるのが、善玉菌のかたまりであるEM!悪い方に味方していた微生物たちを、ぐんぐん善い方へと引っ張って、団結力を高めてくれます。いい土作りにぜひEMを活用してください。

さあみんな、ボくらの方について、環境をよくしようよ!

いい奴らが団結していると、入っていけないよ〜



EMのチカラあらかると

全3回連載
Part 3

いい微生物で、土をパワーアップ!

「もっと知りたい土のこと」の巻

【第六回】